

### 野菜需給協議会幹事会概要

1. 日時 平成21年7月21日（火） 13:30～15:00

2. 場所 農畜産業振興機構南館1階会議室

#### 3. 概要

（冒頭）座長より挨拶

- ・本日は、野菜需給協議会の規約に基づいて、緊急時の対応として幹事会を開催する。
- ・はくさいなどの夏野菜の価格が低迷しており、産地においては、独自に消費拡大等策を講じてきたところもあると聞いているが、依然として極めて厳しい状況におかれているものと承知している。
- ・当協議会は、設立趣旨にあるとおり、国民に対する野菜の需給状況の周知を図る場である。
- ・その意味で、本日の会議は、価格の低迷が続いている葉もの野菜についての情報を関係者が共有する重要な場であると考えます。

#### （1）最近の野菜の需給・価格動向

ア）事務局から、資料1-1により、21年産夏秋野菜の需給・価格の動向を説明。はくさい、キャベツ、レタス、だいこんはいずれも平均価格を下回っていると報告。はくさいについて、「指標価格を約2割も下回る状況」とあるが、指標価格とは、緊急需給調整の発動基準価格のことであり、はくさいの価格は発動基準価格を下回っているという深刻な実態にあると説明。

イ）事務局から、資料1-2に基づき主な産地である北海道、青森県、岩手県、群馬県、長野県及び消費地である東京の5月～7月の気温、日照時間、降水量の動向について前年積算と対比しつつ説明。

ウ）全農から、資料1-3により、21年産夏秋野菜の生産・出荷状況及び今後の見通しについて説明。

（はくさい）7月6日～7月11日の全国主要都市卸売市場入荷は対前年比91%で、これは7月6日の週の後半から長野が行った自主調整の影響であり、8月上旬以降は平年並の出荷となる予定。

（キャベツ）6月以降平年より安い価格での販売が続き、全体的に7月21日以降も順調な出荷が見込まれる。

（レタス）全体的な出荷量は平年並かやや少なめで推移しているものの、価格は平年より安く推移。

(だいこん) 価格は平年を下回る水準での販売となっており、今後遅れていた北海道産が集中して出荷されることも予想される。

#### エ) 質疑応答及び意見交換

- ・北海道における夏だいこんの8月の出荷量の見込みは？事務局の資料を見ると、だいこんの価格は7月に入ってからずっと下がっており、発動基準額に接近しているため心配しているのだが。【事務局】
- ・今後の天候次第であるが、うまくいけば平年並。雨の影響がなければ遅れていた分が集中する可能性がある。【全農】
- ・作物にもよるし、前年に比べて1~2%出荷量が多いだけでも価格は大きく変動することもある。【学識経験者】
- ・野菜の価格はもう何年も上がっておらず野菜全体の価格が下がっているという社会情勢になっている。産地では計画生産、計画出荷に取り組んでいるが、天候も各地によって様々で、肥大の前進、出荷の前進等、なかなか計画通りにいかない。また、出荷が前進したことによって後で足りなくなることもあるし、肥大が進んで量が多くなって足りてしまうこともあり、このために価格安定制度や需給調整制度があると思っている。気象条件で変わるため将来どうなるかというのは難しい。【全国中央市場青果卸売協会】
- ・最近、リーフレタスや水耕栽培レタスといった夏のサラダ材料に活躍しそうな非結球レタスの種類が豊富で売り場も多い。結球レタスの価格は安いですが、非結球レタスの価格はわりと高い。【主婦連合会】
- ・今は、はくさいの価格が上向かなくて問題。家庭での需要もない。【全国中央市場青果卸売協会】
- ・この時期のはくさいは8割がキムチ等の加工向け【農林水産省】
- ・そのキムチ材料が輸入ものに押されているという現状で、一口に消費拡大と言っても難しい。【全国中央市場青果卸売協会】
- ・キムチが唯一の需要だったのに、そこを輸入に入り込まれると辛い。【事務局】

#### (2) 野菜の消費拡大の取組

ア) 事務局から、資料 2-1 により、消費拡大の取組について説明。現在価格が低迷している野菜の消費を促すため、急遽それぞれの野菜の機能性やレシピを作成して機構HPに掲載する旨を説明。また、野菜需給協議会会員の野菜関係の取組や、平成 21 年度消費拡大推進事業（長野県産はくさい・レタス）の内容を紹介。

イ) 農林水産省から、資料 2-2 により、「夏ベジプロジェクト」について説明。このプロジェクトについては、農林水産省ホームページのトップページ「注目情報」にも掲載していると説明。

ウ) 全農から、資料 2-3 により、全農長野県本部と全農群馬県本部のこれまでの取組及び今後の取組について説明（長野県本部の白菜キャンペーンの取組や群馬県本部の8月2日

のイベントの紹介など)。

#### エ) 質疑応答及び意見交換

・ベビーリーフが30g入りの袋で100円以上しているのに対し、結球レタスやだいこんは80円くらい。なぜこのような価格なのか、いくら説明を聞いても理解できない。もっと高く売ってあげたい。

・消費拡大には、生で食べたり炒めたりするだけでなく「蒸す」調理法もある。現在、蒸し料理は流行っている。ゆっくり蒸すことで野菜の甘みも増し、また、冷めても美味しい。このブームに農水省ものってはどうか。そういった世の中の動きに着眼することが大事。せつかくお金をかけて消費拡大に取り組むのだから、流行も取り入れて欲しい。調理が面倒ではないレシピを工夫して提案してほしい。【消費科学連合会】

・モロッコの調理器具「タジン鍋」がブーム。肉も野菜もいっぺんに入れて蒸せる。土鍋でも良い。【主婦連合会】

・蒸すための鍋をわざわざ買わなくても、家にあるものでできる方法もあるので、そういったやり方を農水省や全農に広く提案して欲しい。そうすれば野菜の値段も上がるのでは。「拡販お願い」と言うのではなく、皆が協力する気になるために、どうすれば良いのかを具体的に言ってほしい。【消費科学連合会】

#### (3) 事務局より「野菜の消費拡大活動の推進」について提案

・野菜需給協議会の会員各位に向け、それぞれの特色を生かしてそれぞれのルートで野菜の消費拡大を呼びかけることとし、本日の幹事会の結果のプレスリリースや機構ホームページにおいて公表する。

・緊急アピールには「蒸す」という具体的調理法を加えたらどうか。【農林水産省】

【※緊急アピールについては別添参照】

#### (4) その他

・昨年、食と健康に関するセミナーを行った際、日本人は葉酸の摂取量が少ないとの話があった。こう聞くとサプリメントで補おうとしがちだが、この辺りを厚生労働省とも情報交換してフォローし、野菜の機能性等が広まると良い。【主婦連合会】

・産地と業者との関係が主である加工・業務用野菜の分野での消費拡大は、一般にできることとして、例えば、中食・外食を利用する人に対して国産を使っている商品を訴えるというのはどうか。中国餃子事件の時、消費者の拒絶があったため業者は中国産の使用を止めざるを得なかった。加工・業務用野菜の消費拡大は、現在の輸入のパイを国産がどう奪うかであり、何か方策はないかと考えている。【学識経験者】

・低価格化が進み、200円台のお弁当等も出ている。一方で、コストはかかるが全て国産材料でやっている店もある。【学識経験者】

・消費者が選べば、業者はそれに従わざるを得ない。消費者が意識を持つことが大事。【学識経験者】

最後に座長より、本日の議論を踏まえ、野菜の需給状況の周知や消費拡大に努めていくよう関係者の方々にも取組をお願いしていきたい旨の発言があり、閉会となった。